

2

国際緊急援助及び消防防災に関する国際交流の最近の動き

1. ネパール地震災害に対する国際緊急援助隊救助チームの派遣

海外で大規模な災害が発生した場合、被災国等からの要請に基づき国際緊急援助隊救助チームが派遣されるが、平成27年4月のネパール地震災害において、消防庁は全国の消防本部の救助隊員等により編成される国際消防救助隊を国際緊急援助隊救助チームの一員として現地に派遣した。

(1) 災害の概要

平成27年4月25日、日本時間の15時11分頃（ネパール時間の11時56分頃）ネパールの首都カトマンズから北西約80kmを震源地とするマグニチュード7.8（米国地質調査所（USGS）発表）の大規模な地震が発生した。この地震でネパールの首都カトマンズを中心に死者8千人、負傷者2万人を超える甚大な被害が発生した。

(2) 地震発生直後の消防庁の対応

消防庁では、地震発生直後から外務省、独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）及び隊員の派遣が見込まれる消防本部（以下「派遣元消防本部」という。）と緊密な調整を行っていたが、地震発生当日の21時15分頃、ネパール政府が非常事態宣言を発出し、21時55分頃、各国に対して、あらゆる形の人道援助の要請を表明したため、外務省から「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」に基づく派遣の協議がなされた。これを受けて、消防庁長官が国際消防救助隊の出動を決定し、派遣元消防本部に対して派遣の要請を行った。

今回派遣された国際消防救助隊は、消防庁及び7消防本部所属の計17人で構成され（トピックス2-1表）、成田国際空港に4月26日12時00分までに集結した。国際緊急援助隊救助チームの結団式後、国際消防救助隊の発隊式が行われ、隊員を激励する内容の高市総務大臣のメッセージが伝達された。

なお、国際緊急援助隊救助チームは、消防（国際

トピックス2-1表

ネパール地震災害における国際消防救助隊の派遣構成

○ネパール地震災害における国際消防救助隊の派遣構成（計17人）

【派遣期間：平成27年4月26日～5月9日】

・消防庁	1人	・川越地区消防局	1人
・東京消防庁	6人	・秋田市消防本部	1人
・さいたま市消防局	3人	・高崎市等広域消防局	1人
・浜松市消防局	3人	・富山市消防局	1人

消防救助隊）の他、外務省、警察、海上保安庁、JICA等から構成され、今回のネパールの派遣では、総勢70人のチームが編成された。

(3) 被災地での活動

ア 出発【4月26日～4月28日】

4月26日17時52分に成田国際空港を出発した国際緊急援助隊救助チームは、バンコク経由で4月27日にはネパールに到着する予定であったが、ネパールのトリブバン国際空港が、支援のため各国から飛来する航空機の着陸による混雑の影響により着陸できず、4月28日ネパール時間の11時44分に到着した。

イ 被災地での活動【4月28日～5月8日】（トピックス2-1図）

ネパールのカトマンズに到着した国際緊急援助隊救助チームは、既に現地の日本国大使館及びJICA事務所を通じて、被災状況や救助活動が必要とされる範囲等の情報収集を行っていたため、ネパール到着の午後から、旧王宮（ハヌマン・ドカ）周辺において、これまでの派遣と比較し、入国後、最も迅速に搜索救助活動に取り掛かることとなった。

搜索救助活動にあたっては、国連を中心として各国の救助部隊や被災国の災害対策本部との調整を行うOSOCC（現地活動調整センター）が搜索救助範囲の区割りや各国の救助部隊の活動範囲を調整し、その結果に基づいて、各国の救助部隊が活動スケジュールの組立てや割り当てられた活動範囲の部隊

トピックス2-1図 ネパール地震災害における国際消防救助隊の活動概要



配置等を行った。

なお、国際緊急援助隊救助チームは、国連の下で各国の専門家により構成される国際捜索・救助諮問グループであるINSARAGによる能力評価において、最高分類である「Heavy（ヘビー）」を取得していることから、多くのがれきが堆積するとともに、建物倒壊危険が高い等高度な捜索救助技術が要求される活動範囲を割り当てられた。

4月29日には、旧王宮周辺及びバクタプール周辺において捜索救助活動を実施した。ゴーグルや防

塵マスク等の個人装備の装着を徹底した隊員が、気温35度にも及び、余震の発生危険のある過酷な活動条件の中、手作業によりがれきを除去していく方法で捜索救助活動を実施し、旧王宮周辺において女性1人の遺体を発見した。

さらにOSOCCと調整しつつ、4月30日は旧王宮周辺及びバクタプールで、5月1日はサクーで、それぞれ手作業でのがれき除去による捜索救助活動を継続したが、地震発生から1週間を経過した5月2日、救助支援から復興支援の段階に移行していると



過酷な条件での捜索救助活動（旧王宮周辺）



手作業でのがれき除去による捜索救助活動(サクー)



画像探査装置を活用した捜索救助活動(ゴンガブ地区)



削岩機を活用した捜索救助活動(ゴンガブ地区)

のネパール政府の声明を受け、OSOCCの会議において国連側から捜索救助活動終了の発表があった。

国際緊急援助隊救助チームは、サクーにおいて要救助者情報を把握していたため、捜索救助活動を継続することとしたが、5月3日午前、捜索中の要救助者が現地住民により遺体で発見されたとの情報を入手したため、部隊をサクーから撤退させた。

その後、ゴンガブ地区に移動し、被災状況等の調査を実施後、ネパール武装警察から捜索救助活動の必要な範囲等についての情報収集を行った。

5月4日、ネパール武装警察からの捜索救助活動の要請を受け、ゴンガブ地区において1階・2階が座屈した建物の捜索救助活動を実施した。構造評価専門家による安全確認が実施された後、画像探査装置や削岩機等の高度な救助資機材を活用した捜索救助活動を実施したものの要救助者の発見には至らなかった。

5月5日、ネパール武装警察より、国際緊急援助隊救助チームの支援が必要な活動範囲はこれ以上無いとの説明を受け、5月6日に捜索救助活動を終了

した。

ウ 帰国【5月9日】

5月8日、ネパールでの任務を終えた国際緊急援助隊救助チームは、ネパールを出発後、バンコクを経由し、5月9日日本時間の早朝、成田国際空港に到着した。

成田国際空港では、国際緊急援助隊救助チームの解団式に出席した後、国際消防救助隊解隊式が行われ、過酷な任務を果敢に遂行した隊員に対する慰労と感謝を伝える高市総務大臣のメッセージが伝達された。

(4) 帰国後の表彰等

ネパールから帰国して約1ヶ月後の6月12日、総務省において、総務大臣感謝状贈呈式及び消防庁長官表彰式が実施された。

消防庁長官表彰式では、各派遣隊員に対して表彰状及び国際協力功労章が、派遣元各消防本部に対して表彰状がそれぞれ授与され、続いて、総務大臣感謝状贈呈式において、高市総務大臣から各派遣隊員に感謝状が贈呈された。

また、国際緊急援助隊救助チームに対して、11月5日に外務大臣感謝状授与式が、11月18日には天皇皇后両陛下御接見が、それぞれ実施された。



総務大臣感謝状贈呈式

(5) 海外の大規模災害への適確な対応

今回の派遣では、残念ながら生存者の救出には至らなかったものの、気温が35度を超える猛暑の中、また、要救助者や現地の被害状況等の情報把握が困難な状況の中での、国際緊急援助隊救助チームの献身的な活動に対して、ネパール政府及び国民から高

い評価と謝意が送られた。

今回の派遣を通じて、迅速な国際消防救助隊の編成、捜索救助技術の向上、警察、海上保安庁等他機関との連携強化等について、平素からの準備の重要性が再認識されたところであり、「Heavy（ヘビー）」の評価にふさわしい活動が実施できるよう、引き続き各種研修や訓練の実施、国際機関との密接な情報交換等に取り組んでいくこととしている。

2. 第3回国連防災世界会議への参画

平成27年3月14日（土）から18日（水）まで宮城県仙台市において第3回国連防災世界会議が開催され、高市総務大臣が「女性のリーダーシップ発揮」セッションの共同議長を務める他、消防庁においてもフォーラムを主催する等、世界会議に参画した。

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議であり、第1回会議は平成6年（1994年）に横浜市で、第2回会議は平成17年（2005年）に神戸市で開催された。第2回会議では、平成17年から平成27年までの国際的な防災の取組指針である「兵庫行動枠組」が策定された。

第3回国連防災世界会議は、「ポスト兵庫行動枠組」の策定等を行うため、平成24年12月の国連決議及び平成25年5月の閣議了解により、仙台市での開催が決定された。

3月14日（土）には、天皇皇后両陛下ご臨席のもと開会式が行われ、会議期間中、187カ国の代表、国際機関代表、認証NGO等6,500人以上が参加し、併せて開催されたフォーラムや展示会などの関連事業を含めると国内外から延べ15万人以上が参加し、我が国で開催された国連関係の国際会議として最大級の会議となった。

(1) 「女性のリーダーシップ発揮」セッション

3月14日（土）に開催された「ハイレベル・パートナーシップ・ダイアログ」の「女性のリーダーシップ発揮」セッションは、高市総務大臣がフィリピン共和国のレガルダ上院議会議員とともに共同議長を務め、開会の挨拶では、東日本大震災における我が国の女性消防団員、女性防火クラブの活動事例や震災後に地元女性が臨時災害FM局を立ち上げた事例を紹介しつつ、予防、応急、復旧・復興の災害対応の各段階における、女性のリーダーシップの重要性



セッションで共同議長を務める高市総務大臣

を訴えた。

本セッションでは、安倍内閣総理大臣が基調講演を行い、その後、ハロネン フィンランド前大統領、奥山仙台市長、ゲオルギエヴァ欧州委員（財務・人事担当）、カズンWFP（国連世界食糧計画）事務局長、オショティメインUNFPA（国連人口基金）事務局長、フェムリンクパシフィックのメレワラシ氏がパネリストとして出席し、災害時に女性が果たす役割や女性のリーダーシップ発揮促進の支援策等に関する議論が行われた。



基調講演を行う安倍内閣総理大臣

共同議長は、各パネリストやセッション参加者からの意見等を踏まえ、防災分野で女性がリーダーシップを発揮するために必要な今後の取組に関する重要項目をセッションの成果として取りまとめ、最終日に全体会合に報告した。

(2) 消防庁主催の関連事業

ア 消防庁主催総合フォーラム

消防庁は、第3回国連防災世界会議の関連事業の中核的イベントである日本政府、仙台開催実行委員会主催の「総合フォーラム」の一環として、平成27年3月14日（土）に東北大学百周年記念会館川内萩ホールにおいて、「地震、津波、土砂災害時等における消防団、地域住民の役割」をテーマにしたフォーラムを開催した。

本フォーラムには、国内外から900人以上の方が参加し、仙台市青葉消防団の岡村まき子氏による司会進行の下、東日本大震災や伊豆大島の土砂災害、長野県北部地震において、実際に活動した5組6人の消防団員や地域住民等の方々から、各災害時の状況や活動事例等について発表があり、会場等との意見交換が行われた（トピックス2-2表）。



司会進行を行う岡村まき子氏
(仙台市青葉消防団)

最後に、これらの活動事例発表を踏まえて、神戸大学の室崎益輝名誉教授が、災害を語り継ぐ努力や減災防災における心・技・体（体制）の重要性等について述べ、総括を行った。



総括を行う室崎益輝名誉教授
(神戸大学)



活動事例発表を行う菊池のどか氏
(岩手県立大学総合政策部学生)

トピックス2-2表 活動事例発表

※発表順、敬称略

発表者（所属）	タイトル
佐々木由貴 (宮城県南三陸町役場職員)	東日本大震災を経験して
長澤初男 (福島県南相馬市消防団長)	東日本大震災 南相馬市の状況と消防団活動
菊池のどか (岩手県立大学総合政策部学生)	いのちてんでんこ ～釜石東中学校の活動～
鎌倉宏（長野県白馬村堀之内 区自主防災組織会長） 太田史彦（長野県白馬村三日 市場区自主防災組織会長）	長野県神城断層地震時におけ る自主防災組織の活動
羽根高明 (東京都大島町消防本部次長)	台風26号土砂災害 大島町消防団の活動

イ 消防演習、消防車両及び消防科学技術の展示

消防庁では、我が国の優れた消防科学技術や東日本大震災を踏まえた対策等を紹介するために、仙台市役所と夢メッセみやぎにおいて、仙台市消防局、習志野市消防本部、東京消防庁及び新潟市消防局の協力のもと消防演習、消防車両及び消防科学技術の展示を行った。

仙台市役所会場では、仙台市消防局と東京消防庁による消防演習や消防車両の展示、消防研究センターによる水陸両用バギー、消防偵察ロボット、無人ヘリ、パネルの展示が行われ、3月14日（土）・15日（日）の2日間で国内外から約3,000人の方が来場した。

消防演習では、仙台市消防局救助隊が、ロープを

使用した市役所屋上からの降下訓練や水平に張ったロープでの渡過訓練等を披露するとともに、東京消防庁第三消防方面本部消防救助機動部隊が、地震により化学工場で化学薬品が漏洩し、作業員が受傷したという想定で、陽圧式化学防護服を着装した隊員による要救助者の救出、除染車による除染等の活動訓練を行った。



仙台市消防局救助隊による消防演習
(仙台市役所)



東京消防庁第三消防方面本部消防救助機動部隊による消防演習
(仙台市役所)

夢メッセみやぎ会場では、3月15日（日）から17日（火）まで「防災産業展in仙台」が開催され、3日間で国内外から約5,800人の方が来場した。

このイベントの特別企画として、習志野市消防本

部の「拠点機能形成車両」、新潟市消防局の「津波・大規模風水害対策車両」及び消防研究センターの水陸両用バギーの展示を行った。

「拠点機能形成車両」は、被災地での長期間にわたる消防活動を支援するための大型エアータント等100人の宿営が可能な資機材が装備されている車両であり、また、「津波・大規模風水害対策車両」には、津波や大規模風水害により浸水した地域において人命救助活動を行う水陸両用バギーが積載されている。

また、会場では、津波の浸水によりがれきが堆積した地域での活動を想定した水陸両用バギーのデモンストレーション走行が行われた。



習志野市消防本部による「拠点機能形成車両」の展示
(夢メッセみやぎ)



新潟市消防局による水陸両用バギーのデモンストレーション走行
(夢メッセみやぎ)